

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科】

1. 対象（実施を想定する学校・子供の実態の概要）

生徒の実態として、真面目さ直さがあり、学習意欲も高く、地域の活動にも積極的に参加する。しかし、少人数であることや、人間関係の固定化などから、積極的にリーダーシップを発揮したり、堂々と自分の考えを語ったりすることは苦手である。そのため、コミュニケーション力を育成する研修を進めている。

2. 単元（題材）名「日本の諸地域 中部地方」（全6時間）

3. 単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 中部地方が、東海地方、中央高地地方、北陸地方の3つの地域に分かれ、それぞれ地域的な特色があることを理解できる。 中部地方で産業が盛んな理由を、自然環境・交通・人口などの地理的視点で理解できる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 中部地方のどこにスマートフォン工場を建てたらいいのか、自然環境や人口、交通、産業などの地理的条件や人々の対応などに着目して、多面的に考察し、表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 単元課題「なぜ、中部地方は工業が発展している？」の解決に向けて、中部地方についての知識を活用して、試行錯誤しながら、意欲的に追究することができる。

4. 本時の目標

※「5」を単元（題材）で作成する場合は省略可能です。

5. 授業展開【本時・単元（題材）】 ※本時または単元（題材）いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い
中部地方のどのような場所にスマートフォン工場を建てたらいい？

考えるための材料
富山市、諏訪市、名古屋市、掛川市の4つの候補地について、自然環境・人口・交通・産業の4つの産業が発達する要因関係する資料を配付し、4つの候補地のメリットとデメリットを考える。

想定される活動			
自然環境	人口	交通	産業
<ul style="list-style-type: none"> ○諏訪市は水や空気がきれいで精密機械工業に向いている ○富山市は地価が安い ▲名古屋市は、地価が他の都市と比べて2倍以上高い ▲富山市は、冬の積雪で輸送面で不安 	<ul style="list-style-type: none"> ○名古屋市は、労働人口が多く、大学も多いため優秀な人材が集まる ○名古屋、掛川は大消費地に近い ▲名古屋市は、賃金が高く、人件費がかかる ▲諏訪市は、若者が少なく労働者が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの都市も近くに高速道路のICがある ○中部国際空港は、内線・国際線の路線がとても多い ▲富山は冬の積雪で輸送が厳しい ▲諏訪は他より交通網が発展していない 	<ul style="list-style-type: none"> ○諏訪市は、周辺に電子部品工場がたくさんある ○名古屋は、三重の電子部品工場と連携できそう ○富山は、最近電子デバイス産業が発展している ○掛川は、浜松の半導体工場と連携できそう

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

工業が発達する自然環境、人口、交通、産業の4つの要因ごとにエキスパートグループをつくり、前時までに各要因から見た各候補地のメリットとデメリットを調査する。本時では、ジグソーグループでそれぞれの要因から見た候補地の利点・問題点を報告し合い、その後もとのエキスパートグループに戻り、クロストークで新たに気付いたことや4つの要因を合わせて考えたことなどを話し合う。最後に各自でスマートフォン工場を中部地方のどのような場所に建てるべきなのかを考える。

- ・なるべく生産コストを抑えるためには、地価や人件費の安い富山市や諏訪市がいいのではないかな。
- ・名古屋市は、大学などの研究機関が周辺に多く、自動車産業で培った技術もあるので、高性能なスマホが製造できるのではないかな。
- ・掛川市なら、東京・名古屋の中間に位置する立地を生かして、成功することができるのではないかな。

学習の成果（予想される子供のあらわれ）

- ・地価や人件費が高いが、優秀な人材や高性能な部品が集まり、中部国際空港をはじめ交通が発展しているため、高性能・高機能なスマートフォンを製造することができ、海外市場へも出荷しやすいと思うので、名古屋市に工場を建設する。
- ・歴史的に精密機械産業が発展していて、人件費・地価が安いので、高性能で安くスマートフォンを製造できるので、諏訪市に建設する。